

埋文あらかると

富山市水橋地区の試掘調査

富山県では現在各地で農地整備事業(ほ場整備)が進められています。富山市水橋地区では、県営事業と並行して、広範囲の農地を大区画化して生産性の向上や先進的な農業経営を進める国営の事業化を目指しています。当センターでは、ほ場整備の工事に先立ち、水田の下に存在する遺跡の状況を確認する試掘調査を行い、遺跡が工事で破壊されないよう調整しています。今年度は、水橋恋塚遺跡、小出城跡、水橋小出遺跡、水橋大正遺跡の4遺跡において合計316本の試掘溝を設定し、試掘調査を行いました。このうち大きな成果のあった2遺跡を紹介します。



遺跡位置図

国土地理院電子地形図(タイル)に加筆

1 水橋恋塚遺跡 2 小出城跡 3 水橋小出遺跡
4 水橋大正遺跡

水田の下に眠る戦国城跡

小出城跡

富山市の北東部、常願寺川下流の扇状地に位置する戦国時代の城館跡です。織田信長に付く佐々成政と越後上杉勢との攻防の場となったことで知られます。『信長公記』等の文献資料に出てくる「小出城の戦い」は、天正9(1581)年、信長の馬揃えのため織田勢が京都に集まった際に上杉景勝が小出城を包囲しますが、急を知った佐々成政が織田勢の武将と共に取って返し、景勝を撤退させた出来事です。翌10年の本能寺の変後、景勝は再度小出城を奪います。天正11年に佐々成政が魚津城



小出城跡 試掘溝掘削状況

左奥が小出神社

を猛攻した際には、上杉勢は魚津城、小出城を明け渡し越後へ退去しました。過去の発掘調査では、こうした出来事と符合するかのように16世紀後半頃の土器や漆器のほか、長刀の柄、腰刀、土製弾丸、火縄銃の鉛玉、軍馬とみられる大型の馬の骨など、戦乱を想起させる遺物が出土しています。遺物が埋まっていた堀や溝は人為的に埋め立てたり掘削したりした痕跡が認められ、戦の最前線基地として度々改修された様子が想像されます。

今回の調査で、城の中心部と考えられる小出神社周辺から、堀と思われる直線的で深い遺構を複数確認しました。城館本体は見つかりませんでしたが、神社敷地の辺りに存在した可能性がますます高まりました。一方で遺跡縁辺部では自然河川や湿地の広がりが見られました。小出城跡は南北西の三方を中小河川で囲まれた微高地に立地しており、水運や交通の要衝であるとともに、敵の襲来に備えた天然の要塞であったことが明らかとなりました。



小出城跡 堀検出状況

試掘溝内左側の土色の暗い部分が堀

弥生時代の住居出現

水橋小出遺跡

小出城跡の東に位置する弥生時代から近世に至る集落跡です。南北約800m、東西500mの広大な範囲が遺跡とされていますが、集落の中心がどこにあるのかはわかっていませんでした。今回の調査で、アシやヨシが生い茂った沼や湿地が広がる景観が復元でき、所々にある微高地上で人々が暮らしていた様子が判ってきました。微高地のひとつでは弥生時代中期の竪穴住居数棟と住居を取り巻く周溝が見つかり、埋土から弥生土器が潰れて壊れた状態で多数出土しました。土器の破片に混じって、翡翠や碧玉の剥片、砥石も見つかりました。碧玉は鮮やかな緑色の石で、管玉の材料となります。当時、集落内で勾玉や管玉などの玉作りをしていたのかもしれません。



水橋小出遺跡 碧玉出土状況



水橋小出遺跡 弥生土器出土状況

試掘調査では遺跡の全容を解明することは困難ですが、地道な調査の積み重ねが、土地に刻まれた歴史を紐解く一助となっていきます。(朝田亜紀子)